

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成27年9月24日 (2015.9.24)

【公開番号】特開2013-44750(P2013-44750A)

【公開日】平成25年3月4日 (2013.3.4)

【年通号数】公開・登録公報2013-011

【出願番号】特願2012-181162(P2012-181162)

【国際特許分類】

G 0 1 N 31/00 (2006.01)

G 0 1 N 35/00 (2006.01)

G 0 1 N 35/02 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 31/00 D

G 0 1 N 35/00 F

G 0 1 N 35/02 C

【手続補正書】

【提出日】平成27年8月5日 (2015.8.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

試料水中の全有機炭素の測定値を検証する方法であって、

第 1 の試料水に含まれる全有機炭素量を分析装置を用いて測定し、その第 1 の測定値を得る工程と、

前記第 1 の試料水に含まれる全有機炭素量が所定の閾値を超えている場合に、潜在的なエクスカージョン事象を同定する工程と、

前記潜在的なエクスカージョン事象を検出することに応答して、ボトルの中に第 2 の試料水を捕獲する工程と、

前記第 2 の試料水を前記分析装置に導入する工程と、

前記第 2 の試料水に含まれる全有機炭素量を前記分析装置を用いて測定し、その第 2 の測定値を得る工程と、

前記第 1 の測定値と前記第 2 の測定値とを前記分析装置を用いて比較する工程と、

を含む、全有機炭素の測定値検証方法。

【請求項 2】

前記第 2 の試料水を捕獲する工程は、前記分析装置により自動化される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記第 1 の試料水に含まれる全有機炭素量を測定する前記工程は、前記分析装置の第 1 モードで生じる、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記第 2 の試料水に含まれる全有機炭素量を測定する前記工程は、前記分析装置の前記第 1 モードで生じる、請求項 3 に記載の方法。

【請求項 5】

前記第 2 の試料水に含まれる全有機炭素量を測定する前記工程は、前記分析装置の第 2 モードで生じる、請求項 3 に記載の方法。

【請求項 6】

1 以上の追加の試料水を、1 以上の対応する追加ボトルの中に捕獲する工程をさらに含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

前記 1 以上の追加の試料水は、順次に捕獲される、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

前記 1 以上の追加の試料水は、同時に捕獲される、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 9】

前記第 1 の測定値と前記第 2 の測定値とを前記分析装置を用いて比較する前記工程は、前記比較の指標を生成する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 10】

前記分析装置に前記比較の指標を提供させる工程をさらに含む、請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】

前記第 1 の測定値、前記第 2 の測定値、および前記比較の指標のうちの 1 以上を含む試料情報を格納する工程をさらに含む、請求項 9 に記載の方法。

【請求項 12】

前記試料情報は前記ボトルに格納される、請求項 11 に記載の方法。

【請求項 13】

前記試料情報は、前記ボトルの R F I D タグに送信されて前記ボトルに格納される、請求項 12 に記載の方法。

【請求項 14】

前記ボトルは、該ボトルのボトルキャップ内に配置されたベント管を具える、請求項 1 に記載の方法。